

サンゴの移植—長期的取り組み

魚田夏紀

チーム美らサンゴ・全日本空輸（株）CSR推進部

1. 「チーム美らサンゴ」とは

2004年沖縄内外の企業が集まって結成した「サンゴ再生プロジェクト」。地元関係者（恩納村漁業協同組合，及びANAインターコンチネンタル万座ビーチリゾート）の協力，環境省・沖縄県などの行政の後援を得ながら，沖縄県恩納村でサンゴの植え付け活動を行っている。植え付けは一般ダイバー（公募によるボランティア参加）が担い，沖縄の海で起こっている変化に気づいてもらうなど，「美ら海を大切に作る心」を多くの人々に広げるための活動を推進している。

<目的>（規約抜粋）

サンゴ礁が地球温暖化防止を始め，漁業，観光，防災などに寄与していることを認識し，誠実に協力し合い，沖縄のサンゴ礁保全活動を恩納村漁業協同組合に協力して行い，かつ広く世間に対し啓蒙を行うことを目的とする。

◆ サンゴ養殖・植え付け・モニタリング

日本サンゴ礁学会のガイドラインに沿って，恩納村の海域から，恩納村漁協が県の特別採捕許可を取ってサンゴ片採捕し，養殖所で中間育成したサンゴを恩納村の海域に植え付けている。植え付け後は場所毎に定期的にカゴに付いた藻の除去，オニヒトデの駆除も行いながら，生存個体数の確認など長期的なモニタリングを実施している。

◆ 企業が参加するメリット

企業による安定な経済支援によって，本活動を継続的に実施することが可能である。また，各社（在沖縄・東京など）の広報活動によって，社会全体に向けた発信がしやすい。

2. 「チーム美らサンゴ」活動実績

（1）植え付け活動（年5回程度，春・秋に実施）

2004年発足以降，7年間で計53回，参加者（ダイバー1262名・ノンダイバー366名），1694本のサンゴの植え付けを実施。

<プログラム内容>

サンゴ養殖場の見学，サンゴに関する学習（生態・危機的状況など）

②（ダイバー）サンゴ観察ダイブ，陸上リハーサル，海中での植え付け作業

（ノンダイバー）サンゴ苗作り，海中展望船からの観察，スノーケルによる植え付け作業の観察

◆ プログラム内容の工夫

2006年よりノンダイバー向けプログラムを設定。ダイバーでなくとも活動へ参画できるようにした。また、植え付け・苗作りしたサンゴを番号管理し、参加証明書に番号を記載して参加者へ贈呈することで、自分が関わったサンゴの生育状況を再来して確認することができるようにしている。（再参加の促進）

◆ 植え付け後のサンゴ生存率

基盤の改良や保護カゴの設置などにより、2007年春までは順調に推移。2007年夏の高水温によるサンゴ白化現象で大きなダメージを受け、以降、生存率は50%程度で推移。

（2）啓発活動

① 一般向けに「サンゴシンポジウム」を開催

（例）2010年度「チーム美らサンゴ祭り」沖縄・恩納村

恩納村教育委員会の後援で、恩納村在住の子供たちとその家族を招待。サンゴクイズやサンゴ工作教室などを実施したほか、サンゴの苗作り体験も実施。

今回苗作りに使用したプレートは、東京都大田区の小学校3校などで、「チーム美らサンゴ」主催環境教室を受講した約700名の小学生が、サンゴや美ら海へのそれぞれの思いを込めてメッセージや絵を描いてくれたものであり、沖縄と東京の子供たちの思いをつなぐ活動を実施した。

② コーラルフォトコンテスト開催（2009年より実施、2010年は362点の応募あり）

③ チーム企業向け「ダイバー養成講座」の新設

3. 長期的な取り組みの必要性について

（1）植え付け活動はすぐ結果が出るものではないため、技術改良や創意工夫を重ねて生存率を向上させながら、長期的にモニタリングを行う必要がある。また、こうした長期的な取り組みを実現するための「仕組みづくり」が重要である。

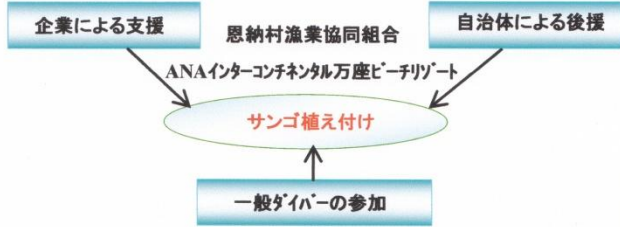
（2）単なる植え付け活動に留まらず、人々がサンゴの重要性を理解し、海を大切にする心を共有できることが最も大きな使命と考える。次の世代まで活動をつなげていくために、社会に広く発信し続けることが大切である。

サンゴの移植—長期的取り組み

【講演者】 魚田夏紀 (チーム美らサンゴ事務局、全日本空輸(株)CSR推進部)

1. 「チーム美らサンゴ」とは

2004年より結成した、自治体・地域住民・企業によるサンゴ保全活動



<目的>(規約抜粋)

サンゴ礁が地球温暖化防止を始め、漁業、観光、防災などに寄与していることを認識し、誠実に協力し合い、**沖縄のサンゴ礁保全活動**を恩納村漁業協同組合に協力して行い、かつ**広く世間に対し啓蒙を行うこと**を目的とする。

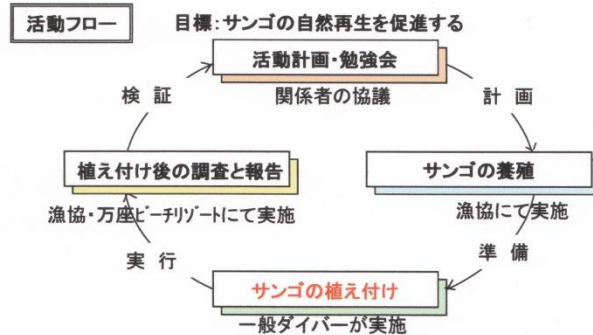
◆ 企業が参加するメリット

- 安定な経済支援による「継続的活動」
- 社内外への広報発信

◆ 一般ダイバー参加のねらい

植え付け本数の増大だけを目指し、専門ダイバーを雇用するのではなく、「美ら海を大切する心」を多くの人々に広げることが主たる目的としている。

2. 「チーム美らサンゴ」活動内容



◆ サンゴ養殖・植え付け

日本サンゴ礁学会のガイドラインに沿って、恩納村の海域から、恩納村漁協が県の特別採捕許可を取ってサンゴ片採捕し、中間育成したサンゴを、恩納村の海域に植え付けている。

◆ 植え付け後のモニタリング

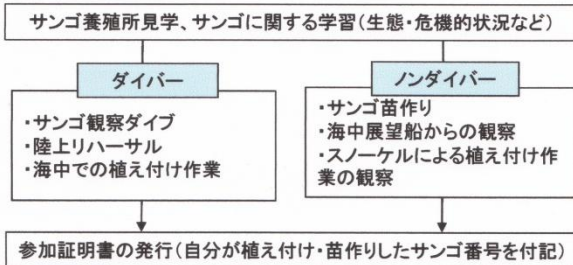
場所毎に定期的にかゴに付いた藻の除去、オニヒトデの駆除も行いながら、生存個体数の確認を行っている。

3. 「チーム美らサンゴ」活動実績

①サンゴ植え付け活動

2004年発足後7年間で、計53回、参加者(ダイバー1262名・ノンダイバー366名)、1694本のサンゴを植え付けを実施。

<プログラム実施内容>



◆ 参加者の公募方法

パンフレット・ポスター・HP等で、参加企業が社内外へ広報を実施。

◆ プログラム内容の工夫

➢2006年よりノンダイバープログラムを設定。ダイバーでなくとも活動へ参画できるようにした。

➢植え付け・苗作りしたサンゴを番号管理し、参加証明書に番号を付記して参加者へ贈呈することで、自分が関わったサンゴの生育状況を再来して確認することができる。(継続参加の促進)

◆ 植え付け後のサンゴ生存率

基盤の改良や保護かゴの設置などにより、2007年春までは順調に推移。2007年夏の高水温によるサンゴ白化現象で大きなダメージを受けた。以降、生存率は50%程度で推移。

②啓発活動

◆ 例年、一般向け「サンゴシンポジウム」を開催。

(例)2010年度「チーム美らサンゴ祭り」

東京・大田区

東京都大田区の小学校3校などで、沖縄のサンゴに関する環境教室を実施。

★サンゴ苗作り用プレートに、サンゴや美ら海への思いを込め、メッセージや絵を描く。

沖縄・恩納村

恩納村教育委員会の後援で、恩納村在住の子供たちを招待。サンゴクイズやサンゴ工作教室などを実施。

★東京の子供たちが思いを込めて描いたプレートを使用して、サンゴ苗作りを体験。

東京と沖縄の心をつなぐ



◆ コーラルフォトコンテストの開催(2009年より実施。2010年は362点の応募あり。)

◆ チーム企業向け「ダイバー養成講座」の新設。